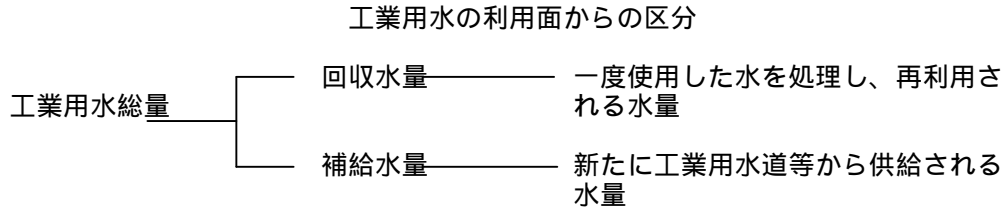
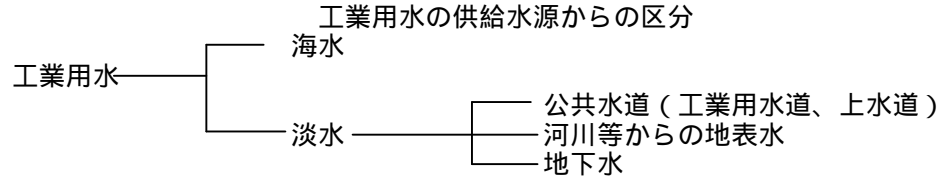


工業用水の概要、利用動向

工業用水の概要

工業分野でボイラー用水、原料用水、製品処理水及び洗浄用水、冷却用水、温調用水等に使用されている水を総称して工業用水と呼び、基礎的資源として工業の発展に重要な役割を果たしています。



工業用水の利用動向

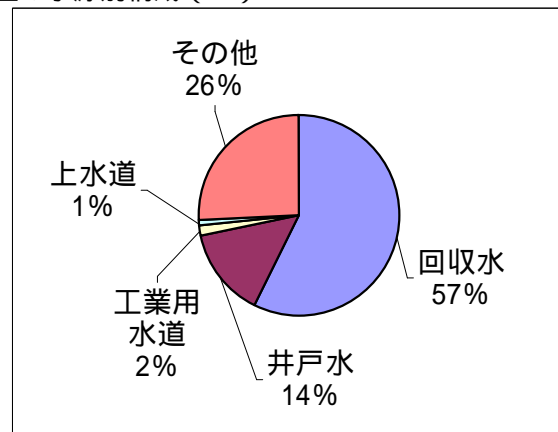
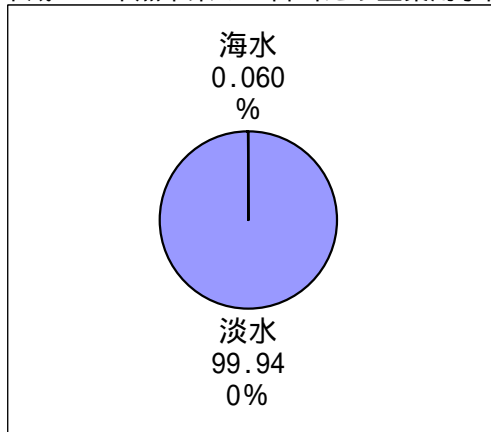
従業員30人以上の工場について、工業用水の利用動向として昭和55年の淡水総量を基準にその推移を見てみると平成5年にかけて減少しその後再び増加傾向にあります。しかしながら、本県の工業用水の回収率（回収水の淡水使用量全体に占める割合）は50%を超え、熊本地域においては84.3%と全国的にも高い割合となっています。

熊本県の水源別工業用水使用量の推移（30人以上の事業所）（単位：m³/日）

種類 年	合計	淡 水						海水
		公 共 用		地表水 伏流水	井戸水	その他	回収水	
		工業用水道	上水道					
昭和50年	1,031,686	2,748	17,338	349,406	267,602	1,159	393,433	184,467
昭和55年	1,148,246	9,465	14,275	327,361	238,294	2,353	556,498	127,984
昭和60年	1,068,931	11,966	16,053	315,658	233,604	5,466	486,184	110,943
平成元年	987,466	14,257	12,426	288,353	210,235	2,825	459,370	112,660
平成5年	972,182	18,426	12,226	279,912	193,768	17,479	450,371	100,243
平成8年	1,026,797	15,702	16,402	258,813	186,864	1,876	547,140	670
平成12年	1,041,615	18,534	10,453	263,953	150,764	23,548	574,363	660
平成16年	1,109,609	19,633	8,728	-	157,413	287,469	636,366	665

平成16年は地表水・伏流水についてもその他の淡水に算入。

<平成16年熊本県の1日当たり工業用水使用量の水源別構成（%）>



参考)

平成16年「熊本県の工業」（熊本県）

工業用水道の概要

工業用水道は、工業用水の安定的な供給を通して産業の発展や地域の振興を目指す基盤施設です。また、工業用水道の整備は過度の地下水汲み上げによる地盤沈下の防止にもつながり、国土保全にも一役かっています。このように重要な使命をもっている工業用水道は、工業用水道事業法に基づき、工業用水道事業者が工業団地など特定の給水区域の需要者に供給するもので、事業者の多くが地方公共団体です。本県においては、県営で3事業、市町村営で3事業の合わせて6事業が行われています。

事業主体	事業名	供給先	水源	給水能力 (m^3 /日)	給水開始年月
県企業局	有明工業用水道	荒尾市・長洲町	菊池川	33,860	昭和50年6月
県企業局	八代工業用水道	八代市	球磨川	27,300	昭和52年4月
県企業局	苓北工業用水道	苓北町	都呂々川	8,500	平成5年8月
西原村	西原村工業用水道	鳥子工業団地	地下水	1,200	昭和62年1月
大津町	大津町工業用水道	熊本中核工業団地	地下水	3,000	平成2年10月
城南町	城南町工業用水道	城南工業団地	地下水	1,000	未定
合志市	合志市工業用水道	第二テクノパーク	地下水	2,300	平成10年4月

工業用水は、主として河川の表流水を水源としており、浄水場での凝集剤による浮遊物等沈殿処理を経て各需要者に配水されます。その処理過程は次のとおりです。

工業用水道給水図

